

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100090		
法人名	株式会社 ヴァントーズ		
事業所名	グループホーム ヴィエント		
所在地	栃木県矢板市片岡1174-2		
自己評価作成日	平成30年11月20日	評価結果市町村受理日	平成31年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	平成30年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご自分のペースで自分らしく家族的な生活を安心して送っていただけるように、温かい心で寄り添いながら支援に努めさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「ゆっくりと一緒に楽しみながら」支援する意義を職員は理解した上で、「利用者が昔はできていたことが今はできなくなったこと」も個性と捉えて、その人が落ちこまないように「一人ひとりの個性を活かした」支援となるよう、常に利用者にとって何が一番大切なかを考えて支援している。事業所のある片岡地区のボランティア団体との交流は頻繁で、事業所の夏祭りや防災訓練への参加協力、地域の人も参加する地域カフェの開催などを通して、ボランティアの人達が利用者や地域の人との様々な関わりを作ってくれる存在となっている。事業所と地域との関係性も良く、運営推進会議は参加する行政や地域包括支援センターの職員とともに地域住民の介護に関する問題の解決に向けて智恵を出し合う場になっている。今後事業所が片岡地区の高齢者介護に関する相談が寄せられ頼られる存在となることが期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、ゆっくりと一緒に楽しみながら、ひとりひとりの個性を生かし寄り添いながら支援に努めています。	管理者は理念である「ゆっくりと一緒に楽しみながら」支援する意義を職員が理解していると判断し、その上で、「利用者が昔はできていたことが今はできなくなったこと」も個性と捉えて、その人が落ちこまないように「一人ひとりの個性を活かした」支援を心がけてほしいと職員に伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々の協力を頂きながら地域の行事に参加したり、施設に来て頂くなど地域との交流が出来るよう努めている。	事業所のある片岡地区のボランティア団体との交流は頻繁で、事業所の夏祭りでは、やぐらの準備から当日の手伝いまで地域の方が自主的に行ない、ボランティアの代表は「地域の中心となるような夏祭りにする」と心強い発言をしている。また、防災訓練への参加協力、地域の方も参加する併設の小規模多機能型居宅介護事業所での地域カフェの開催など、ボランティアの人達は利用者や地域の人との様々な関わりを作ってくれる存在となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々との交流を持ち話しやすい関係を持てるよう努めている。また、地域の方々を交えて研修を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方々から意見を頂きながらサービスの向上に努めている。	開設当初の運営推進会議の委員だった自治会長と民生委員は、役職を退任しても地域住民代表として関わり、運営推進会議での防災に関する話し合い後、事業所の行う防災訓練に地域住民が参加協力することにつなげている。また、地域住民の介護に関する問題を運営推進会議の場に持ち込み、参加している行政や地域包括支援センターの職員、事業所が解決に向けて智恵を出し合うこともある。その様な取り組みが地域に認められ、結果的に事業所の地域貢献に結びついている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として参加して頂き、市連絡協議会や市内グループホーム交流会に参加し協力関係を築けるよう努めている。日頃から電話や窓口に出向き連絡を密に取るように努めている。	市が事務局を担う介護事業所連絡協議会での研修会やグループホームの交流会に定期的に参加することで市の担当者とは協力関係が構築されている。特にグループホームの交流会の運営は自主的に行い年間テーマを決めて実施している。その中で、欠板市のグループホームの適正配置を、地域密着型サービスを実施する上での課題として話し合ったこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会やカンファレンスを行い、個人の意思を尊重し見守りを重視した身体拘束をしないケアに努めている。	研修会では基本的な身体拘束防止に関することを学び、定例会議のケアカンファレンスは具体的に拘束をしないケアを確認する場としている。身体拘束の事例は無いが、管理者は、職員が利用者の行動を言葉で止める抑制をしていないか注意し、ケアの場での不適切な声掛けに対してアドバイスをしている。その後の定例会では適正な声掛けができるように全職員にそのアドバイス内容を伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修に参加し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修会や事業所内の研修会に積極的に参加し活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、疑問等にはその都度対応し説明をするよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など意見・要望を聞けるように努めている。	面会や電話連絡の際に家族から意見・要望を聞くようにしている。「職員の名前が分かるように名札を付ける」、「オムツや日用品の補充連絡はまとめてほしいとの要望には、依頼表で管理し、まとめて依頼する」、「家族の付き添いの受診時に利用者が待つことができないで困った場合は慣れた職員が同行する」など、多くはないが要望等は速やかに対応している。	要望や意見が少ないことは、介護に満足していることの表れとも思えるが、本人や家族には言いにくさや遠慮があることもあるので、これからも意見・要望が出しやすい配慮や工夫を凝らしてほしい。それによって本人や家族の事業所に対する信頼が更に深まることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、定例会議を開催し施設長に意見や提案を述べられる機会を設けている。	毎月行われる定例会議は、遅番と夜勤者以外の職員が参加している。行事内容の検討やケアカンファレンスが行なわれ、それに伴う業務内容の見直し改善も話し合われる。服薬準備の見直しや浴室への手摺りの取り付けなどの施設改修もこの場で検討され、職員からの意見が反映されている。	小規模な職員体制の中、遅番と夜勤者以外の全職員が集まって定例会議を実施することは容易ではないが、手を抜かずに協議することを続けてほしい。それが更なる事業所の質の向上につながることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に査定を行い必要に応じては面談を行い各自の意見を取り入れようと努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加できるように努めている。資格取得のため勤務時間等の配慮に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業所連絡協議会や交流会・研修会に参加してサービスの質の向上に努めている。また、事業所内合同研修会を開き交流の機会を設けるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が困っている事、不安な事を聞き安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っている事。不安な事を聞き安心できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の話しを聞き必要としている支援を見極めていくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される一方の立場ではなく協力し合い共に暮らしていける関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の困っている事。不安な事を聞き安心できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力を頂き来所し易い雰囲気作りに努めている。	地域ボランティアなど人の出入りは多く、地域に開かれた事業所である。家族はもちろん、友人や近所の人も来やすい場所となっている。来訪者に対する職員の配慮も行き届いている。行事等で外出する場合でも利用者の記憶に残っている所を選ぶような工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりが孤立しないように、利用者同士が話が出来るような雰囲気作りや職員が間に入り支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも今までの関係を踏まえ相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に希望や意向をその都度尋ね困難な場合は話し合いの場を設けていくよう努めている。	利用者は自分で意思表示できる人が多いので、職員との日常の会話や利用者同士の会話の中に、その人の思いや希望、意向が含まれていると考え、全職員で常に把握して、管理者や計画作成担当者に伝えている。意思表示が困難な人は、日常の態度や行動、顔の表情などから思いを推し量る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時のアセスメントシート以外にも、ご本人やご家族との会話の中なら情報を把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を観察することにより現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者状況等より関係者との話し合いをもとに介護計画を作成している。	入居前の生活状況は家族や前のケアマネジャー等から情報を得、入居時には本人から希望等を聞き取り介護計画を作成している。入居後は担当職員が生活の様子を毎月文書化してケアカンファレンスの場に提供し、参加する職員からも意見を聞き、モニタリングを行い、介護計画書の補足・修正を行っている。また、半年後の再アセスメントにもつなげている。毎月行われるケアカンファレンスが全職員の情報共有を確実なものにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し情報を共有し会議にて見直しをし実践や介護計画に活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度話し合いをして柔軟に対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加、ボランティアの受け入れ等日々の暮らしを楽しめるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居する以前からの主治医を継続し家族施設との連携を図り適切な医療を受けられるよう支援に努めている。	家族による通院介助を原則とし、入居前の主治医を変えることなく受診している。家族が遠方や都合の悪い等の理由で職員が代わることもある。また、家族が利用者とコミュニケーションを取ることが困難になっていると管理者が判断した場合は、同行することもある。利用者の受診情報はメモや口頭でやり取りされ、送りノートや定例会議で全員共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に問題提起があれば職員間で情報提供しより良い処置が受けられるよう家族に連絡を取るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時及び入院中も病院関係者と連絡を取り合い連携を図るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度ご本人ご家族と話し合いをしどこまで出来るか十分に説明するよう努めている。	現在の事業所の体制では看取りなどの終末期の対応は難しい事を入居時に説明している。重度化し医療行為が必要となった場合は、家族に事業所として出来る範囲を説明して納得して頂き、ぎりぎりまで支援している。	施設長は、終末期も事業所で過ごしたいと願う利用者や家族の為に、今後、協力可能な医療機関を捜すことや看護師を事業所に配置するなど、情報収集や体制づくりに取り組んでいきたいと考えている。今後の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内の勉強会や外部研修、救急救命講習会に参加し実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々にも参加して頂き消防署の指導のもと避難訓練を行うよう努めている。	消防署の協力を得て、併設の小規模多機能事業所と合同で年2回の避難訓練を行っている。職員は訓練を繰り返すことが不安を取り除くことに繋がると考えている。訓練には地域住民も複数参加し、避難後の利用者の見守りをしている。地域の協力者は事前に避難場所に椅子を用意したり、他の住民に声掛けを行うなど積極的に協力している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った言葉かけや対応に努め、馴れ合いにならないよう言葉使いに気を付けるよう努めている。	職員は全員、利用者を「さん」付けて呼び、馴れ合いから来る関わり方の乱れを意識的に注意している。利用者に対する声掛けも、ゆっくりと返事を待ち、その後選択肢を提案するなどして、自己決定の機会を作り出している。利用者へのプライベートな質問は居室や入浴時など場所を選んで聞き、職員同士の申し送り等個人情報の伝達時には、場所や声の大きさなどに注意している。職員は利用者の話をゆっくり傾聴することをとても大事にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が伝えやすいよう雰囲気を作り自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ一人ひとりのペースに合わせて過ごせるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に選んで頂けるよう支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望と取り入れ、食事の準備や片付けを職員と出来るよう努めている。	週5日の昼食用おかずは近所の人に委託しているが、それ以外は職員が作っている。職員は利用者の好みを取入れた献立を考え、週に2・3回、利用者と一緒に近くのスーパーに行き食材を購入して調理している。全員での外食の機会も多く、ファストフード店や道の駅、回転ずし、デパート等バラティニーに富んでいる。事業所の隣には馴染みの飲食店があり、食べに出かけるだけでなく、雨の日など出前を取り食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量のチェック表に記入し体調の変化に気付けるよう支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人に合った口腔ケアを行うよう支援に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの自立に向け支援に努めている。	昼間はほとんどの利用者がリハビリパンツを使用しているが、排泄チェック表をもとに適時誘導の結果、リハビリパンツから布パンツに変更した例もある。夜間は利用者のペースに任せ必要な支援を行っている。夜間のみ居室にポータブルトイレを置く利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分摂取や運動など進めて予防に取り組むよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の曜日を決め週に3回は入浴されるようにしているが、体調に合わせて変更している。	週3回午後個別介助で利用者のペースに合わせて入浴支援を行っている。入浴を拒否する利用者には、時間や職員を代えて対応している。脱衣所には床暖房が施され、浴室に向かう動線には手すりが配置されている。浴槽内に椅子を置くなど、利用者が気持ちよく、安心して入浴出来るように工夫している。重度化した利用者には、併設の小規模多機能事業所のリフト浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にて自由に過ごして頂けるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その都度、申し送りノートを活用し定例会議や朝夕の申し送り時にも口頭で確認するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の行事、外出、外食等を通して気分転換等の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、福祉祭り等の地域のイベントにも出掛けられるよう支援に努めている。	天気の良い日の事業所周辺の散歩は利用者の日課であり、近くのスーパーで食材や日用品を購入したり、コンビニにお菓子を買に出かけたりと日常的な外出の機会が多い。季節ごとの外出も桜やツツジなどの花見、紅葉狩り、リンゴ狩りなど多い。地域の福祉祭りや地区の公民館まつりなどに出かけて知り合いに会う楽しみもある。友人の写真展や家族と一泊で温泉に出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金の管理ができる方がいないため職員が管理しご家族に出納長の確認をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族に確認し電話や手紙のやり取りができるよう支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備、湿度、温度調整に気を付けている。季節感の感じられる飾りやイベントの写真を飾り生活館や季節感を取り入れるよう支援に努めている。	明るく広々とした玄関ホールは、テーブルと椅子が置かれ、家族との話し合いの場所に使用するなど、多目的スペースとして利用している。居間兼食堂には、対面式オープンキッチンがあり、作業する職員の気配が利用者にとって安心感を与えている。壁には外出時やイベントの楽しそうな写真が飾られ、話題作りに一役かっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のスペースにて過ごされている。気の合う方と同じテーブル席になれるよう支援に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人ご家族と相談しながら、使い慣れたものや好みの物を用意して頂けるよう支援に努めている。	居室入口には、利用者と工作ボランティアと一緒に作った季節のプレートが飾られている。室内は、エアコンとパステルカラーのカーテンが備え付けられている。家具やテレビを置き、家族が手伝って家具の上に写真などを飾っている人、自宅と同じように布団を敷き毎日布団を干す人など、それぞれが思い思いの生活空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りに努め、廊下などに物を置かないように工夫しソファを置き休憩できるよう支援に努めている。		